コゲラ

　コゲラは命名のとおり日本に棲むキツツキの中で最小であります。あちらこちらの森で最も頻繁に出会うキツツキでして、私自身も屋久島から本州および北海道で出会いましたから分布は全国区であります。しばしば単独行動を見かけますが、カラ類の群れと一緒に行動していることが多いのです。一緒に行動してはいても餌の捜し方はキツツキそのものでして、ひそやかながらコツコツと枯れた小枝を啄つく音で、コゲラがいることがわかることがしばしばです。ギーッ、ギーッと鳴く独特な小声でもわかります。森林ボランティアで活動する森でもしばしば出会いますが、地味な装いと密やかな行動などで、鳥にあまり関心の無い方々には見えない鳥かもしれません。
　装いは背側がほぼ面積的に均等なベージュと黒の連続横縞、腹側はベージュの地にやや薄い褐色の不連続な縦縞を配しております。頭部は地が灰褐色で眉線の部分や後頭部に白をあしらっていて、雄の頭頂部の褐色部がやや濃く、図鑑の写真では後頭の両脇にほんのすこし赤い羽毛が認められる程度ですが、全体としてアカゲラ、コアカゲラに近づきたい気持ちがあらわれているような気がします。進化した方向がどちら側からかはよく判りませんが、上記3種はほぼ同じパターンの模様とみなしてよいと思っております。雄の後頭部の赤毛は自然の現場ではまず見えないでしょう。
　分布は日本の他はサハリンや南千島列島とされています。あまり広くないようです。サハリンで繁殖しているのならば、ロシヤ極東部に棲んでいてもよろしいのではと思うのであります。

　写真は澄川の森でヤナギの枯幹をつついている場面です。澄川では沢地の一部とか池のある湿地にヤナギ類が侵入していて、当ボランティアが基地としている場所に大木に成長した1本があります。そのヤナギの幹を柱の片方にして、小屋を作りました。図面なしにああしよう、こうしようと現場で試行錯誤しながら出来上がりました。越冬用として機材収納や風雪避けに活用されることでしょう。

　ヤナギは一昨年粗朶沈工の材料として使い、その結果の発芽状況も期待どおりであることを確認しました。最近は木質バイオ原料として注目されはじめた状況があり、さらに関係が深まることになりそうです。私が使っている「北海道樹木図鑑」（佐藤孝夫　著）には 23 種のヤナギ類が掲載されています。かねがね豊平川河畔林のヤナギの種類が気になっていますので、本気で調べておかねばならないと思う次第であります。